

# 「呼び方調査」



呼び方調査：'94年11月実施  
首都圏18～69歳までの男女384人  
(男性 164人、女性 220人) 郵送法

たとえば、若い恋人同士。知り合った当初はお互い「山田さん」「鈴木さん」と苗字で呼び合っていたのが、付き合いが進行するに従い「タロウ」「ハナコ」となり、ついには「タロぴょん」「ハナハナ」などと、「とても他人がいる前では恥ずかしくて口に出せません……」という呼称で呼び合っていたりするものです。

また、自分にとってはただの「田中さん」でしかない会社の上司の家に遊びに行ったら、彼は家庭においては「パパ」としか呼ばれていなかったことを知り、ちょっと恥ずかしくなりながらも“恐るべし、二つの名を持つ男……”と試してみたりもする。

そんなあなたも、ふと自分の家庭をかえりみってみると、夫婦や親子の間で、家族だけがわかる暗号のような呼び名が通用していたりするのではないのでしょうか。「呼びかけ方」とは、非常にプライベートな色彩が濃いものです。自分で「親のことは、こう呼ぶのが当たり前だ。世間の常識なのだ。」と思い込んでいても、見事に裏切られることもある。そんな呼びかけ方に関する勝手な思い込みは、意外と多いのではないのでしょうか。

そこで今回は呼びかけ方に関する誤解・思い込みを、色々と集めてみました。あなたも同じ思い込みをしているのか、そして思い込みの真偽のほどは……？

## ●思い込み ---- その①

「普通、日本人は自分の親のことを子供の頃から『お父さん、お母さん』と呼んでいるものだ」

「ママ」と言う男は冬彦さんだけで、「父ちゃん」と言う男は星飛雄馬だけ。いずれにしてもテレビの中の人達だし、普通の人には「お父さん、お母さん」って言ってるものだ、と思っている方、いらっしゃるかもしれません。しかし……。

子供の頃、両親を何と呼んでいたかと聞いてみると、

1位	お父さん	(52.9%)	お母さん	(52.3%)
2位	パパ	(20.1%)	ママ	(19.5%)
3位	お父ちゃん	(17.2%)	お母ちゃん	(19.5%)

……と、やはり「お父さん、お母さん」の占める割合が多くはなっています。しかし「パパ、ママ」に「お父ちゃん、お母ちゃん」、そしてその他の呼びかけ方を含めれば4割以上は「お父さん、お母さん」非使用家庭があるのです。この1位～3位までの呼称を、「両親三大呼称」と呼ぶことにします。

ここで年配の方は「パパ・ママ」派の多さに、そして若者は「お父ちゃん・お母ちゃん」派の多さに、驚かれることでしょう。子供の頃に「ママ」と呼んでいた割合は、10～20代の女性では44.7%と半数近いのに、50～60代の女性の間では2.3%に過ぎません。明らかに「パパ、ママ」は、今風の呼びかけ方、なのです。

対して「お父ちゃん、お母ちゃん」は、年配者の間でポピュラーです。子供の頃「お母ちゃん」と呼んでいた割合は、10～20代の女性では7.4%ですが、50～60代の女性では34.1%と高率。今の若者は「巨人の星」の再放送すら見たことがなく、テレビドラマで泉ピン子の口からしか「お母ちゃん」などと聞いたことがないかもしれませんが、子供が母親を呼ぶ言い方としては「昔はお母ちゃん、今はママ」ということが言えそうです。



## ■めずらしい呼び方

●おていさん（父親）  
おたあさん（母親）

-----57才女性

●ダディー

-----23才女性

## ■私のパパママストーリー1

-----29才女性

子供の頃はずっと「パパ、ママ」と呼んでいたけれど、10歳くらいになって親に「おかしいから」「お父さん、お母さん」に直された。でも、受験して私立の女子中学校に入ったら、周りがみんな「パパ、ママ」と呼んでいたの、また学校では「パパ、ママ」と呼ぶようになった。今は再び「お父さん、お母さん」になっている。

## ■私のパパママストーリー2

-----40才男性

子供の頃から現在まで「お父さん、お母さん」と呼んでいる。しかし高校～大学の一時期、「おたん、おかん」に変わったことがある。「お父さん、お母さん」と呼ぶのも恥ずかしいけれど、いきなり「おやじ、おふくろ」に変わるのも、自分が成長したことがあからさまになってしまうようで恥ずかしく、わざとふざけた言い方をしたのだと思う。

## ●思い込み -----その②

「男は、大人になったら自分の親のことを『おやじ、おふくろ』と言うものだ」

子供の頃に何と呼んでいようが、大人になってくると、何となくそれまで使っていた親に対する呼びかけ方が恥ずかしくなってきた、結局は「おやじ、おふくろ」に移行するものである。それが、男ってもんなのである！ ……と、女性はちょっと期待している部分があります。しかし、自分のフィアンセの男性が母親に対して「ママ」と言うのを聞いて、将来に不安を感じたという若い女性もいる。果たしてその辺、どうなっているのでしょうか？

現在、親に対して子供の頃とは違う呼びかけ方をしている割合は、

男性 父親に対して ----- 56.7%

母親に対して ----- 56.7%

女性 父親に対して ----- 31.8%

母親に対して ----- 33.6%

……と、やはり男性の方が高率です。半分以上の男性は、大人になった今、子供の頃とは違う言い方で親を呼んでいるのです。

では、どんな呼び方に変まっているのか。前述の「両親三大呼称」をもとに見てみます。子供の頃、母親をどう呼んでいたかによって、大人になってからの変化のしかたも、異なるのです。

表① 母親に対する呼び方の変化（男性）

子供の頃の呼びかけ方	大人になって呼びかけ方を変える割合	呼びかけ方を変えたときの平均年齢	どんな呼びかけ方に変えた人が一番多いか（変えた人ベース）
お母さん	47.3%	21.4才	おふくろ（52.3%）
ママ	85.0%	14.4才	お母さん（35.3%）
お母ちゃん	73.7%	19.5才	おふくろ（53.6%）

表①でもわかるように、子供の頃に母親のことを「お母さん」「お母ちゃん」と呼んでいた人にとって「おふくろ」は“進むべきポピュラーな道”なのですが、「ママ」派にとってはそうとは限りません。さすがに子供の頃「ママ」と言っていた男性は、呼びかけ方が変わる率も高く、その年齢も一番早いのですが、「おふくろ」ではなく「お母さん」の道に進むのです。今まで「ママ」と呼んでいたのがいきなり「おふくろ」では、恥ずかしいのかもしれませんが。子供の頃「ママ」と呼んでいた男性というのは、現在30代までの若い世代が多いので、「ママ」→「お母さん」→「おふくろ」と三段変化する可能性も考えられます。

一方では、変化しない男性もいます、やっぱり。「お母さん」派がそのまま「お母さん」と呼び続ける率は約半分。そして注目の「ママ」派も、15%は今も「ママ」と言っているわけです。ちなみに、今も「ママ」と言う男性の最高年齢は、39才です。

### ●思い込み ----- その③

「女性が母親になった時、自分が子供の頃に  
母親を呼んでいた呼び方を子供にさせるものである」

お子さんを持つ女性に、今、お子さんからどう呼ばれているかを聞いてみました。

自分が子供の頃、母親を「A」と呼んでいた女性は、自分の子供から「B」と呼ばれる率が最も高い。

A	B	
お母さん	お母さん	(52.1%)
ママ	ママ	(61.9%)
お母ちゃん	お母さん	(65.9%)

というわけで、やはり「お母さん」派及び「ママ」派に関しては、呼びかけ方に対するロイヤリティー（って言うのか？）も高いようです。しかし、「お母ちゃん」派に関して言うと、自分の子供から「お母ちゃん」と呼ばれている人は0%。「お母ちゃん」の衰退は著しく、呼びかけ方に対するロイヤリティーも、時代の風潮には勝てそうにありません。

### ●思い込み ----- その④

「最近の孫を持つ女性は、『おばあちゃん』と  
呼ばれるのを嫌がる」

昔は、「おばあちゃん」と言えば外見も中身も「おばあちゃん」だったけれど、最近の「おばあちゃん」はとても若く見える人もいます。確かに「おばあちゃん」と呼ぶのは可哀相な感じで、「『大ママ』と呼んで」とか「孫には『ヨーコさん』と呼ばせる」とおっしゃる気持ちも理解できます。

おばあさんのことをどう呼んでいるかを聞いてみると、ベスト3は

1位	おばあちゃん	65.3%
2位	おばあさん	9.9%
3位	ばあちゃん	6.5%

と、圧倒的に「おばあちゃん」が多い。

対して、孫を持たない女性に、もし孫がいたら何と呼ばせたいかを聞いてみると、ベスト3は

1位	おばあちゃん	49.7%
2位	おばあちゃま	13.7%
3位	ばあば	5.5%

と、やはり「おばあちゃん」は多いものの、「ばあば」など可愛げのある呼び名が求められています。「グランマ」、「大ママ」、「大お母さん」、「名前+ちゃん」など、「婆」の字を発想させない呼び名も、まだ孫を持つことに関して現実味を感じていない若者を中心に、求められているようです。

## ●思い込み ----- その⑤

「夫は妻のことを、『ハナコ』などと名前で呼び捨てにするものである」

この思い込みは、当然はずれます。夫が妻のことを何と呼んでいるか、ベスト3は、以下の通り。

1位	「お母さん」もしくは「ママ」	44.9%
2位	名前呼び捨てもしくは名前+ちゃん、さん等	31.8%
3位	「おい」「ちょっと」等	15.0%

妻を「ハニー」と呼ぶ人が多いなどとは最初から思わなかったものの、「お母さん」「ママ」が1位という結果は、未婚女性にとってショッキングです。“夫婦というのは、男と女ではなくて、お父さんとお母さんがくっついた存在なのかあ”と、まだ結婚に対して夢を持ち続けている若い女性は腫を曇らせるのでした。

では、妻は夫のことを何と呼んでいるのでしょうか。ベスト3は以下の通り。(既婚者ベース)

1位	「お父さん」もしくは「パパ」	60.0%
2位	名前呼び捨てもしくは名前+ちゃん、さん等	15.3%
3位	「おい」「ちょっと」等	2.7%

……と、「ダーリン」と呼ぶ人が多いとはやっぱり思わなかったものの、実は夫を「お父さん」もしくは「パパ」と呼ぶ妻は60.0%と、「お母さん」「ママ」と呼ぶ男性よりも断然多い。夫を名前で呼ぶ妻も、少ないのです。親のことを「パパ、ママ」と呼ぶ西洋化は根付いた感がありますが、配偶者間における呼称は、保守的です。案外、夢を先にプチ壊すのは、女性の方なのかもしれません。

## ●思い込み ----- その⑥

「職場において、上司を『さん付け』では呼べない」

ある会社では、上司と部下の間の垣根をなくすため、さん付けで呼び合おう、という「さん付け運動」が行なわれているそうです。しかし、日常的に「さん付け」をしている人は「そんなもん、運動するほどのことか？」と思うことでしょう。果たして、上司に対する「さん付け」は、そんなに異常なことなのか？

あなたは、職場の上司のことを何と呼んでいますか？（働いている人ベース）

1位	苗字+さん……例：「吉田さん」	36.4%
2位	役職名のみ……例：「部長」	28.1%
3位	苗字+役職名…例：「吉田部長」	26.9%
4位	その他	4.3%

「部長」派と「吉田部長」派をあわせれば半数以上にはなりますが、「吉田さん」派もさほど少ないわけではありません。「吉田部長」などという呼び方は、社内においてのみ通用する符号のようなもの。さあ、明日から社長も「さん付け」か？

## ●思い込み ----- その⑦

### 「最近の若い女の子は、女友達を苗字で呼び捨てにする」

「タカハシ、てめえよお……」などと、女同士で男のような言葉遣いをする茶髪のコギャルにお嘆きのあなた。そんなコギャル達も、もう少しすれば落ち着くかもしれません。

同性・同年令の知人をどう呼ぶことが多いか聞いてみたところ、未婚女性に関して言えば苗字の呼び捨ては4.3%。ベスト3は

1位	名前呼び捨て	32.9%
2位	名前+ちゃん	30.0%
3位	ニックネーム	28.6%

と、可愛いもんです。これが既婚女性となると

1位	苗字+さん	50.7%
2位	名前+ちゃん	15.3%
3位	ニックネーム	14.0%

と、さらに落ち着く。しかし、こと女性に関して見てみると、年齢によって男性の知人に対する呼びかけ方が、ガラッと変わってきます。

表② 同年令の男性の知人（例：佐藤一郎さん）をどう呼ぶことが多いか。

	「佐藤さん」	「佐藤くん」	「佐藤」	「一郎さん」	ニックネームで
10～20歳代 女性	2.2%	48.4%	11.8%	0%	24.7%
30～40歳代 女性	56.2%	17.8%	1.4%	0%	8.2%
50～60歳代 女性	77.3%	0%	0%	13.6%	2.3%

たとえ年齢は同じであれ、男性を「くん」づけでは呼ばない50～60歳代の女性。「佐藤ーッ」と呼び捨てにする今の若い女性からは、考えられないことかもしれません。

## ●思い込み ----- その⑧

### 「男は、女から呼び捨てにされるとムッとするものだ」

「佐藤ーッ」と女から呼び捨てにされ、男性の方はどう思っているのでしょうか。異性の友人からどう呼ばれると嬉しいか、聞いてみました。

表③ 女性の知人から「こう呼ばれたら嬉しい」と思う呼称

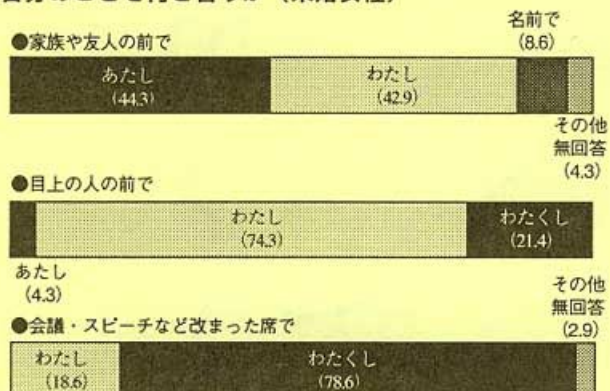
	「佐藤さん」	「佐藤くん」	「佐藤」	「一郎くん」	「一郎」
10～20歳代 男性	23.6%	19.4%	12.5%	19.4%	18.1%
30～40歳代 男性	57.9%	24.6%	1.8%	10.5%	12.3%
50～60歳代 男性	57.1%	5.7%	0%	0%	0%

「佐藤」「一郎」の両呼び捨て呼称、50～60歳代男性の場合は嬉しいと思う人がゼロなのに対し、若い世代では合わせて3割以上が「嬉しい」と思う。思い込みその⑦の結果と併せ、「男を軽く見つめる女性」「そしてそれをも思わない男性」の増加を感じさせます。

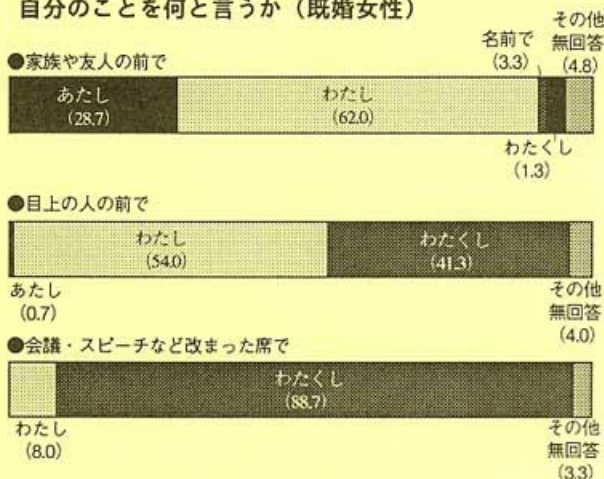
## ●思い込み ---- その⑨

### 「女性は、自分のことを『わたし』と言う」

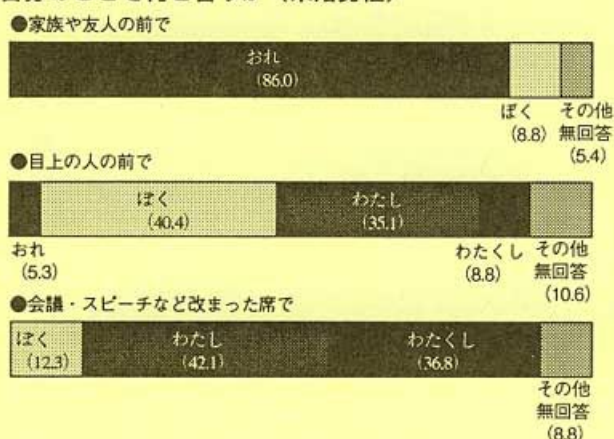
#### 自分のことを何と言うか（未婚女性）



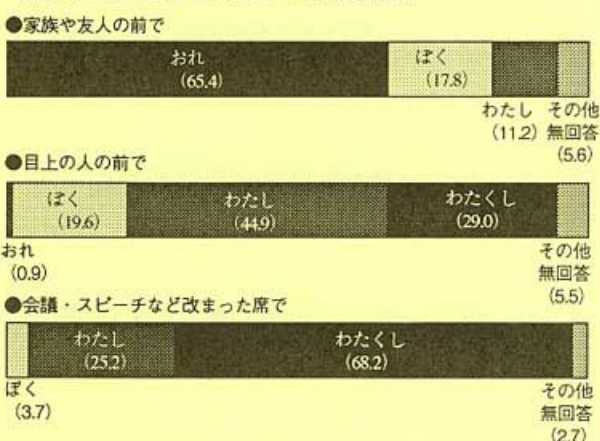
#### 自分のことを何と言うか（既婚女性）



#### 自分のことを何と言うか（未婚男性）



#### 自分のことを何と言うか（既婚男性）



女性の一人称でメインを占めるのは、確かに「わたし」ではありません。しかし、若い世代においては「あかし」も、特にハスツパな感じもなく、普通に使用されているのです。女性にとって「あかし」のような存在は、男性にとっての「おれ」でしょう。「あかし」も「おれ」も、母音から始まるので「わたし」「ぼく」などよりも口に出しやすい言葉です。その辺りが、面倒臭がり屋の若者に好まれる理由ではないかと思われる。

話題は変わりますが、村山首相の「談」として

新聞・雑誌においてよく書かれている

「わしは……じゃ。」

などという発言。あの「わし」及び「……じゃ。」というのは、本当に首相が使っている言葉なのか、それとも首相の「老人っぽさ」「仙人っぽさ」を醸し出さんがための、記者のツクリなのか。一度、本当に「わし」と言っているところを、聞いてみたいものです。ちなみに、50～60歳代の男性で、家族や友人の前で「わし」という人は、2.9%、いらっやいます。

……ということで、やはり思い込みは思い込みであり、必ずしも真実ではありませんでした。「私はこんなこと、最初っから思い込んでいなかった」という方もいらっしゃることでしょう。呼び方とは、その人が生きる時代や環境、そして価値観をもを反映するものです。他人からどう言われようと変わらない、という不可侵の領域でもあるのです。よく、未婚の男女に「結婚するならどんな人がいいか」という質問をすると「価値観の同じ人がいい」という答え方をするものですが、「呼び方」も、判定法の一つとして、案外使えるかもしれません。

# 生 活 太 郎 の 一 刀 独 断

●連載三十回

兵庫県南部地震が  
阪神大震災に  
改名された日。



どう呼ぶか。そこには名付ける対象への「思い」が現われる。兵庫県南部地震は、やがて阪神大震災へと、呼び名が変わっていった。被害の大きさから、地殻の変動を示す地震という言葉よりも、大震災の方が適当だとメディアは考えたようだ。阪神大震災の名前を最初に使ったのは、地震当日の17日、読売テレビ=日テレ系の一部の報道だという。翌日の毎日テレビ=TBS系・毎日は全面的にこの名前を採用。以下、関西テレビ=フジ系（19日）、読売（22日）、朝日・産経・日経・NHK・ABCテレビ=テレ朝系（23日）と大勢が阪神大震災となった。淡路島では、この呼称が当地域の被害をイメージさせないと不評だそう（朝日新聞1月28日）。週刊誌では、関西大震災、神戸大震災、神戸地震という名前も生き残っている。

で、72年前の関東大震災においては、どうだったのか。大正12年9月1日に地震が起きた数日後からの新聞は、関東大異変、東京大変災、

東京大地震、東京震災、帝都震災、関東震災、東京大災害、関東大地震、東京大災震、帝都大震災などがある。大異変といった名前は、「何が起きたか分からない」という地震直後の地方紙の狼狽を示している。

関東大震災という言葉は、極めて少ない。9月9日の大阪朝日新聞の広告に「関東大震災実況」ということで、8日から日活系の映画館で、地震の状況を映した映画公開といった告知がある位だ。

ちなみに9月1日に地震が起き、10日には帝都復興策決定の記事も出る。9月23日には、帝都復興の中心施設、丸ノ内をめがけて6本の地下電車計画とあり、対応が早い。1ヶ月後の10月1日の新聞には、市長の新東京の建設プラン、地震成金の出現、自治の誇り上野のバラック街といった記事も見える。10月19日には、大正大震災大火災の書名の出版広告がある。はたして、平成大震災という呼び名は出るだろうか。

◆阪神大震災が生活に与える影響◆既に日本経済への影響は、各種の見通しが出ている。重要なのは、価値観が変わることだ。ライフラインという言葉が浮上したが、これから敷衍して、企業・行政の活動は、命を軸に展開されるべきだと認識が深まる。命のインフラであるライフライン、人や組織をつなげるヒューマンライン、心を結ぶコミュニケーションラインの大切さが求められる。命、人、心という21世紀への方向性が見えてきたともいえる。関西を起点に、ライフライン・マネジメントの発想のもと、次世紀の価値観が浮かび上がってくる。PL（製造物責任）にとどまらず、各種のライアビリティが問われる年になりそうだ。つなげるという意味では、生活予報95で取り上げられた「系づくり」がテーマになる。被災者救済の中で、各企業はその業種らしい支援を必死に考えたが、それは「何のために、我が社は存在するのか（レゾナント）」を再認識することにもなった。個人においても人生を見直す契機となっている。

●生活花子の「みんな、もう、してる？」●  
：「94年版・生活定点」のオンラインサービスが開始されています。コードブックもお手元  
：に届いているはず。ご活用を。コードブックの追加をご希望の方は、内線6450まで。